

| | |
|-------|----------|
| 受託団体名 | 静岡県教育委員会 |
|-------|----------|

事業実績報告書

(1) 講習の実施方法： 対面講習 ・ 通信講習 （不要なものを二重線で消す）

(2) 本事業における目標等

平成 28 年度現在 65.7%（全国第 43 位）という低位な特別支援学校教諭免許状保有率を、平成 32 年度末までに特別支援学校籍教員の特別支援学校教諭免許状保有率 100%を目指す。
（平成 30 年度以降の採用者で講師経験のない者を除く。）

(3) 事業の実施日程

| 事業項目 | 実施時期 | | | | | | | | | | | |
|-------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 文部科学省申請 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 受講生募集 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 認定講習実施 | | | | | ○ | | | | | | | |
| 認定講習単位証明書発行 | | | | | | ○ | | | | | | |
| 免許申請受領・免許発行 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |

(4) 認定講習・公開講座・通信教育の概要

| 認定講習・公開講座 通信教育名称 | 概要 | 期間 | 定員 | 中心となる領域 | 時間数 | 一・二種 専修の別 施行規則第 7条該当欄 |
|-----------------------------------|---|------------------------|----------------------------------|--|-----|--------------------------------|
| | | | 受講希望者数 受講者数 (うち単位認 定者数) | 含む領域 | 単位数 | |
| 平成31年度 静岡県教育委員 会免許法認定講 習 | 【重複障害児の心理・病理・指導法】 重度肢体不自由と重度知的障害を重複する者の 障害の医学的内容、心理的特徴等について講 義し、合わせて、指導方法の内容について講 義をおこなう。これにより、特別支援学校や 特別支援学級などにおいて、より適切な授業 および配慮をすることを可能とする。 | 令和元年 8月13日 8月14日 | 220 | 重複・LD 等領域 | 15 | 二種 |
| | | | 95 | | | |
| | | | 95 (95) | 視覚障害者 聴覚障害者 知的障害者 肢体不自由者 病弱者 | 1 | 第3欄 |
| | 尚綱学院大学 教授 小池 敏英 常葉大学 講師 赤塚 めぐみ | | | | | |

| | | | | | |
|--|---------------------------------|----------------------------|---------------|-----------|------------|
| <p>【特別支援教育に関する基礎理論】 現在の「障害」の捉え方について共有し、わが国における障害のある児童生徒の教育の歴史や特別支援教育を支える基本理念と制度を理解する。次に、新学習指導要領の改訂のポイントを踏まえ、各特別支援教育の場における現状と課題を概観した後、今後わが国が目指すインクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の推進の在り方について展望し考察する。</p> | <p>令和元年 8月15日 8月16日</p> | <p>220</p> <hr/> <p>94</p> | <p>-</p> | <p>15</p> | <p>二種</p> |
| <p>静岡大学 准教授 山元 薫 静岡大学 教授 大塚 玲</p> | | <p>94 (94)</p> | <p>-</p> | <p>1</p> | <p>第1欄</p> |
| <p>【視覚障害児の心理・病理】 本科目では視覚障害児の心理・病理について基礎的な理解を深めるとともに、盲児の心理特性、弱視児の心理特性について解説する。さらに教育現場における心理面や病理面に配慮した支援方法について解説する。なお本科目の達成目標は「教育職員免許法」に示されている特別支援教育に携わる教員に求められる専門性の確保とする。</p> | <p>令和元年 8月19日 8月20日</p> | <p>220</p> <hr/> <p>96</p> | <p>視覚障害者</p> | <p>15</p> | <p>二種</p> |
| <p>桜花学園大学 教授 柏倉 秀克</p> | | <p>96 (96)</p> | <p>-</p> | <p>1</p> | <p>第2欄</p> |
| <p>【聴覚障害児の指導法】 聴覚障害児教育をめぐる現状は近年大きく変化し、また多様化している。100年を超える歴史の中で、教育課程や指導法についてどのように考えられてきたかを学ぶ。特別支援教育制度下で聴覚障害児がどこでどのように学んでいるかを解説する。手話の活用と書き言葉（日本語）の獲得について、聴覚障害児が何のために学ぶのかを知り、個人差の大きい子どもたち一人一人に寄り添える視点を持ちたい。</p> | <p>令和元年 8月21日 8月22日</p> | <p>220</p> <hr/> <p>97</p> | <p>聴覚障害児</p> | <p>15</p> | <p>二種</p> |
| <p>筑波技術大学 講師 大鹿 綾</p> | | <p>97 (97)</p> | <p>-</p> | <p>1</p> | <p>第2欄</p> |
| <p>【肢体不自由児の心理・病理及び指導法】 肢体不自由教育の歴史や教育課程・制度を理解し、特別支援教育の動向を踏まえて、これから求められる肢体不自由教育の在り方について学習する。また、後半は小グループに分かれ、模擬事例を通して発達支援や自立活動の観点から実態把握や指導目標・内容の設定について検討し、個別の指導計画の作成演習を行う。</p> | <p>令和元年 8月23日 8月26日</p> | <p>220</p> <hr/> <p>96</p> | <p>肢体不自由者</p> | <p>15</p> | <p>二種</p> |
| <p>静岡大学 教授 石川 慶和 静岡大学 教授 香野 毅</p> | | <p>96 (96)</p> | <p>-</p> | <p>1</p> | <p>第2欄</p> |

(5) 事業の実施結果

①定員に対して受講者数が少ない状況となっている。

原因としては、受講対象者への周知不足が考えられる。各所属へ募集案内を送付しているが、各教員のところまでその情報が届いていない可能性がある。特別支援学校教諭免許状保有率を考えると各所属には未所持者がまだ多数いるため、その該当者に対して受講を促す必要がある。

②受講者アンケートの集計結果

【満足度】

- ・ 講義内容 満足56%、おおむね満足39%、普通5%
- ・ 会場、施設 満足10%、おおむね満足26%、普通52%、不満足12%
- ・ 交通機関等 満足11%、おおむね満足21%、普通57%、不満足11%
- ・ 運営面 満足33%、おおむね満足53%、普通14%

【感想抜粋】

- ・ 実践的な内容に加えて、保護者の心理についても学べ、良好な信頼関係を築く糸口が見えた。
- ・ 医学的な側面から見た子どもの姿や特別支援の歴史的な背景を知ることができた。
- ・ 特別支援教育のそれぞれの特徴や子どもの特性を学ぶことができた。
- ・ 視覚、聴覚について具体的に学べたため、現在の所属の指導に生かすことができる。

(6) 事業の実施成果

特別支援学校教諭免許状の保有率を上げるため、平成29年度から定員枠を各講義135名から220名に拡大して実施している。

特別支援学校教諭免許状保有率は、平成29年度が67.8%、平成30年度が70.4%、令和元年度が76.6%と年々上昇しており、本事業により免許取得者が増加したことで、一定の効果が得られてはいるが、100%にはまだ届かない状況である。今年度は受講者数が定員数の半分以下という状況であったが、現在の保有率を考えると定員数は縮小せず、受講者数を増やすため、特別支援学校教諭免許状未所持者へ認定講習を周知することが今まで以上に必要になる。

今後も引き続き認定講習を実施し、保有率100%を目指していく。

(7) 今後の改善事項と方策

【改善事項】

受講者数の増加

【方策】

- ・ 受講対象者は本務職員のみとしてきたが、令和2年度以降は任期付職員も対象とすることで受講対象者の枠を拡大し、受講者数の増加を図る。
- ・ 講習会の募集通知を各学校へ配付するだけでなく、特別支援学校の所管課とも連携し、校長等が参加する会合の機会を利用して周知するなど、各所属内で各教員まで認定講習の情報が届くよう働きかける。